



—北アフリカ地域ニュース—

リビア：アラブ連盟首脳会議

(3月29日付現地各紙)

3月28日午前、アラブ連盟首脳会議の閉会式が行われ、下記のシルテ（注：リビア国内の開催地）宣言が採択された。

- (1) アラブ連盟首脳は、アラブの結束を堅持し、アラブ諸国間の対話を強化して諸国間の意見の相違を除去し、相互関係を発展させることで一致した。
- (2) アラブ連盟設立に対するイエメンの提案をフォローする為のハイレベル 5 者委員会の設置を決定した。同委員会は、カッターフィ・リビア指導者、サーレハ・イエメン大統領、ムバーラク・エジプト大統領、ハマド・カタール首長、タラバーニ・イラク大統領により構成され、アムル・ムーサ・アラブ連盟事務総長が監督の役割で参加する。
- (3) アラブ連盟組織の改善を決定した。
- (4) パレスチナ問題について、イスラエルによる東エルサレム入植の完全停止によって、パレスチナ・イスラエルの交渉は再開すると主張した。また、オバマ米大統領に対し、入植反対の立場を堅持するよう訴えた。
- (5) アラブ諸国首脳より、アラブ連盟事務総長に対して、アラブ・近隣国会合設立の提案があった。これは、地域におけるアラブ諸国と近隣国との相互利益強化のために設置されるものであり、本年9月に設置の為の閣僚会合開催が合意された。
- (6) 2011年3月に第23回アラブ連盟首脳会議をイラクで開催することが決定された。開催都市は、イラク政府が国内情勢を見て判断することとし、イラク国内での開催が困難な場合には、エジプトで開催することとした。
- (7) 3月7日に実施されたイラク連邦議会選挙の結果について、歓迎の意を表明した。
- (8) イラク隣国は、イラクとの国境線を尊重し主権を侵害してはならず、国際法を遵守し、問題が発生した場合は対話による外交解決を行うよう要請した。
- (9) いかなるテロ行為に対しても、アラブ諸国は一致団結して対抗することを確認した。
- (10) スーダン問題について、アラブ諸国は、連帯して協力し、正当な選挙によって選出されたバシル大統領の権利を侵害する国際刑事裁判所の決定に対抗するため、バシル大統領を支援することを確認した。ダルフル問題は国内紛争であり、これを国連安保理が国際刑事裁判所に委ねるのは、国連憲章、国際慣習と一致しないと表明した。